ご自由にお持ちください。

ふれあい

第　１６０　号
平成３０年１０月
青森県立中央病院
（題字は藤野院長）

院内部門紹介

質の高い救急医療を目指して
～救命救急センターから～

救命救急センター長
花田 裕之

青森県立中央病院救命救急センターは救急医4名と総合診療医6名を中心に患者診療にあたっています。総合診療医は内科系、救急医は外科系のようなイメージがありますが、その守備範囲はかなり共通しています。当院の場合、救命救急センターの救急医療は両方が担当しています。加えて総合診療の外来を行うのが総合診療医、ドクターヘリで現場での救急活動も行うのが救急医です。入院患者については、集中治療の有無にかかわらず、また、疾患にかかわらず担当しています。

これだけ多くの診療科にそれぞれ専門医がいる県立中央病院で救急医・総合診療医は何をするのでしょうか？いろいろな救急疾患がありますが、例えば急性心筋梗塞であれば循環器内科が、虫垂炎（いわゆる盲腸）であれば外科が、大動脈解離であれば心臓血管外科が、消化管出血であれば消化器内科が、脳卒中であれば神経内科または脳神経外科が診療すればいいわけです。しかし、残念ながら患者さんは、名札を首から下げるように診断名をわかるように見せながら受診するわけではありません。腹が痛いとか胸が苦しいといった訴え・症状をもって、病院を受診します。はじめから典型的な症状であれば、慣れた受付の方がそれぞれの診療科に割り振ることもできると思います。人により症状は違い、典型的でない訴えの方は数多くいますし、意識の状態に問題があれば、それすらわかりません。訴えや、身体所見、検査所見から適切な診療科と連携して診療に当たるのが我々の役割です。加えて、患者さんによっては、詳しい診断の前に治療を始めないと命にかかわる場合があります。これを広い意味で蘇生（狭義には心停止の人を心拍再開させること）といいます。我々の日常やっていることを短くいうと、「必要な人に適切な蘇生を行いながら、診断して適切な診療科と連携して診療に当たること」と言えます。疾患の種類によってはそのまま我々が主体となって治療を行います（例　多発外傷、中毒、重症熱傷、熱中症、敗血症など）。

当院救急の特徴の１つにドクターヘリがあります。青森市は青森県の中央にあり、全県を20-25分でカバーします。消防が地上で安全確認をした上で、予定されたランデブーポイントに着陸し、そこでドッキングした救急車内で患者の初期治療をするのが主な目的です。つまり、重症患者の初期治療を早く始めることが最大の目的であり、医療スタッフのデリバリーシステムです。また各地域にすべての専門医がいない青森県では、専門治療目的の病院間搬送も役割の1つで、時間短縮と地域を担う医師が地元にとどまれる（従来は往復4-5時間かけて医師同乗の救急車搬送）というメリットがあります。

それ以外にも災害が起こると、災害現場で活動するDMATとしての活動も救急医の役割で、災害拠点病院である県病には現在6チームのDMATがあります。東日本大震災では、宮古病院の支援に入り、参集するDMAT隊のまとめ役を行いましたし、熊本地震では救護所での診療を行いました。また、先月の北海道地震でもDMAT隊を派遣するとともに、県庁で東北地区から合計14隊のDMATをフェリーで北海道に移送するためのマネージメントを行いました。

今後も青森県全体により良い救急医療を提供するべく、救急医療を担う人材を確保するとともに、自らのレベルアップに努めたいと思います。

▲救命救急センター職員とドクターヘリ

脳神経外科の進歩と地域における役割

脳神経外科部長
村上 謙介

県病脳外科開設50年を迎えました。

脳神経外科は脳や脊髄、末梢神経などの疾患のうち、主に外科治療の対象となり得る疾患の診療を行う科です。我が国では1965年に診療科として認められ、県病脳外科は1968年に県内初の脳神経外科として開設されました。私たち県病脳外科は、これまで地域の皆さまにご支援頂き、今年開設50年を迎えることができました。診療科を代表して厚く御礼申し上げます。

さて脳神経外科の診療は、近年の科学技術の進歩により大きく発展しました。脳神経外科疾患の診断に欠かすことのできないCTやMRIなどの画像診断は、疾患の有無や部位、大きさだけでなく、血管の1本1本や血行の良し悪し、脳内に無数に走行する神経線維の束、そして脳機能までも可視化しようとしています。脳腫瘍の手術で用いられるナビゲーションは、手術中、目の前の脳に腫瘍の輪郭を投影し、正確な切除を補助します。また脳神経機能モニタリングを使用することにより、手術中に運動や感覚、視覚、聴覚に関わる神経が傷ついて機能障害を起こしていないか、リアルタイムに確認できるようになりました。昔、手術はメスとそれを操る外科医の経験と技術に依存したものでしたが、医学、工学の進歩は、手術の安全性、確実性の向上に大きく貢献しています。更にカテーテル治療や高精度の放射線治療の進歩により、開頭手術に代わる治療選択の幅が拡がりました。私が医師になって間もない20年前には、カテーテルを用いた治療はまだ治験の段階で、けして良い結果ばかりではありませんでしたし、近年ミリの単位の精度での放射線照射を可能とした定位放射線外科治療は、まだ保険の効かない治療でした。一方で医療の進歩により、必要とされる知識や技術は膨大となり、より高度で複雑になりました。先述した様々な手術支援機器も、その特性や使い方、あるいは欠点を十分に理解した上で利用しなければ、その効果は発揮されません。ひとりの脳神経外科医が全ての疾患を専門とし

て診ることが困難となり、細分化、専門化が否応なしに進んでいます。勿論このことは脳神経外科に限ったことではありません。

さて、医療は一定の地域の中で様々な分野の担い手が役割を果たし、全体として地域で完結するようなものでなければなりません。このことは脳神経外科という小さな診療科の中でも同じで、脳神経外科の患者さんに関わる全てを私たちだけで果たせるわけではありません。県病脳外科で治療を受けられる患者さんの多くは市内の医療機関から紹介して頂き、受診されます。私たちの元で手術やその他専門的な治療を行い、まっすぐ自宅に退院できれば良いのですが、リハビリや療養など、他の医療機関で一定の回復期間が必要となる方も大勢います。元々生活習慣病などで地域の医療機関に通院されている方も多く、自宅に戻られた後は、それらの医療機関と協力して経過を見守る必要があります。治療から長期間安定し、治療がひと段落着いた場合、定期的な経過観察を終了するのですが、患者さんは心配が絶えないものです。そのような場合、経過観察を地域の脳神経外科クリニックにバトンタッチすることもあります。

開設50年を迎えた今、次の50年は勿論のこと、次の10年ですら予測出来ないスピードで脳神経外科は発展することと思います。私たちはこの地域における脳神経外科疾患治療の担い手として、先進的な治療法をいち早く取り入れ、しかし医療の成果は何より患者さんの利益であることを忘れず、地域の脳神経外科として努力していきたいと思います。

あなたの大切なカルテをかかりつけ医と共有しませんか？

安全な地域包括医療のため、「あおもりメディカルネット」に参加してください。

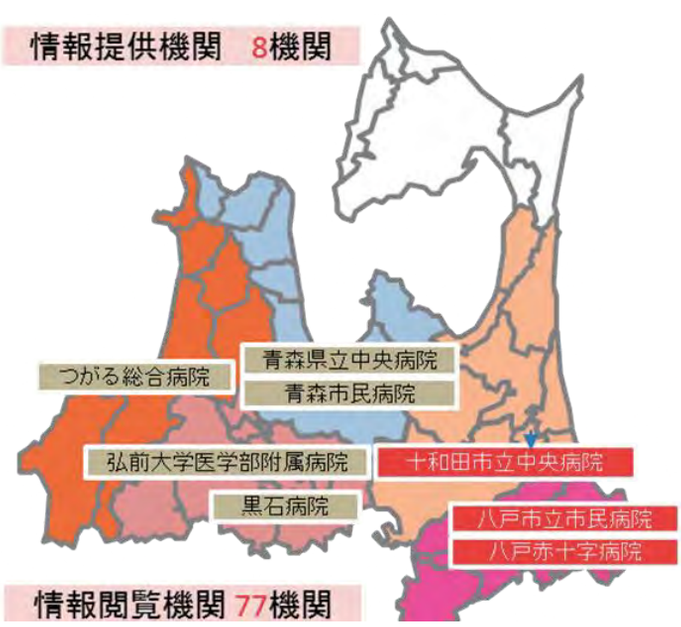
地域医療情報推進監
髙橋　賢一

皆さんは、「あおもりメディカルネット」をご存知ですか？

これからの医療は地域包括医療という体制になります。病院や医院など医療資産を地域の共有財産として最大限有効に活用しよう、という流れです。これまでも高血圧は〇〇クリニック、白内障は△△眼科、胃の手術後の事は県病の外科といった具合に、地域で複数の医療機関にかかっておられる患者さんは多いと思います。しかし慢性的な医師不足が続く中、今後ますます地域での医療の分業を徹底させてゆかないと、質の高い医療は確保出来なくなります。たとえば県病の専門医による治療が落ち着いたあとは、あなたをより広い視野で全身的に診察してくれるかかりつけ医院に紹介して通院して頂くことになります。

しかし、今まで県病で受けた診療の内容がすべて伝わるのか心配でしょう？つまり地域で包括的に医療を行うには、あなたの医療情報をかかりつけの医療機関でしっかりと共有することが絶対に必要になります。あおもりメディカルネットはそのような時にたいへん役立ちます。県病など県内の８つの基幹病院のあなたの電子カルテを　かかりつけ医院と共有するシステムです。インターネットを利用していますが、個人情報の漏洩などないよう、国の定める安全基準をしっかりと満たしています。

県病の電子カルテには、医師診察記録、看護記録、処方・注射（「お薬手帳」では注射は確認できません）のほか、レントゲン写真、心電図などの画像とその読影報告書、血液検査結果、



細胞診・組織診断報告書なども含まれますし、患者さんのご家族の連絡先など生活の情報、血液型、薬・食物のアレルギー、体内金属（治療で使用した金属が体内に残ったもの）など、医療に必要な基本的な情報も含まれています。新たな紹介先の医院だけでなく、すでにあなたのかかりつけになっている医院でも、この情報をすべて24時間見ることが可能になっていれば、より安全な医療を受けることが出来ると思いませんか？

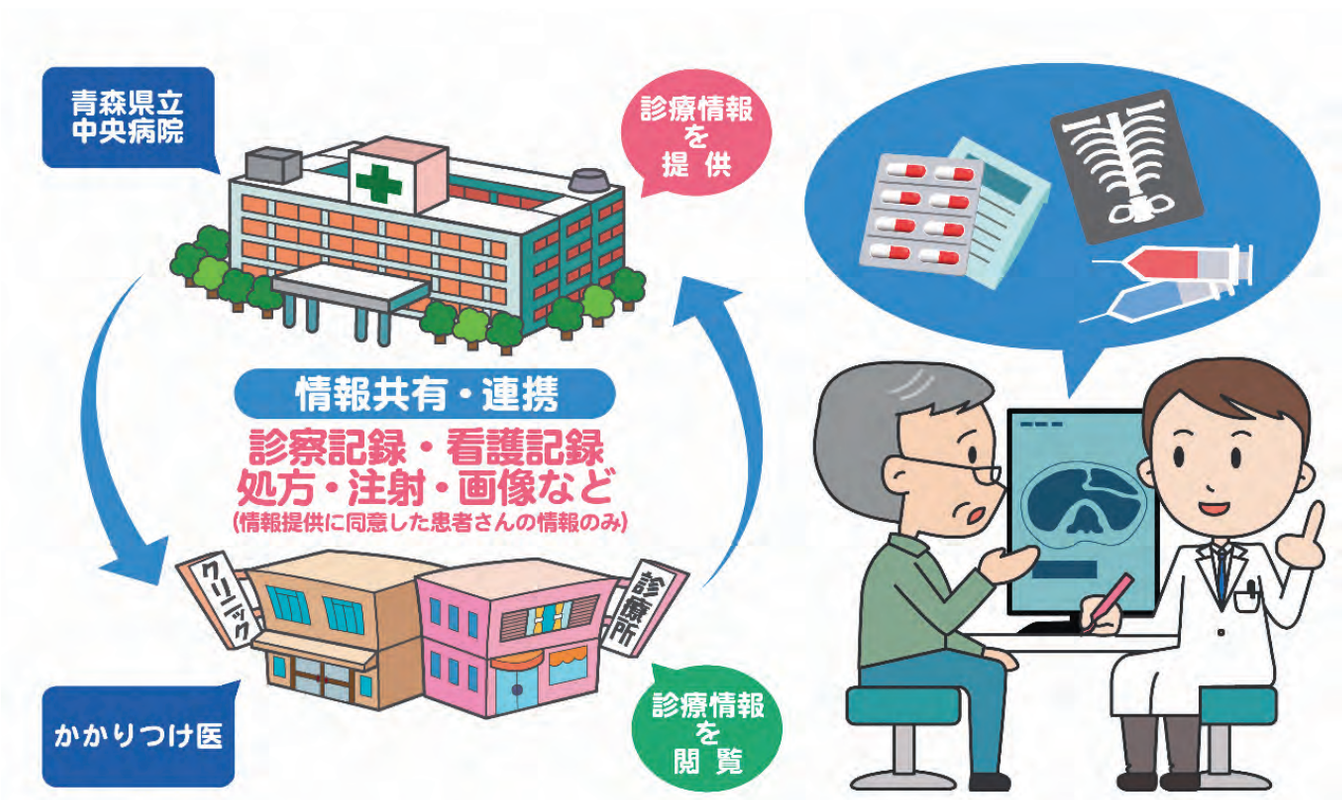
現在、メディカルネットはその輪を拡げている最中で、歯科医院、調剤薬局も参加の準備中です。

たとえば、あなたの糖尿病の薬が変わった場合、かかりつけ調剤薬局も県病のカルテで変更理由を確認しながら説明出来るようになります。これまで以上に安心してお薬を受け取ることが出来るのではないでしょうか？

また青森県も高齢化社会を迎え、在宅医療・介護、つまりご自宅や老人ホームで医師・看護師・介護士に面倒をみてもらう方が確実に急増してゆきます。そのとき往診先で、かかりつけ医や看護師が県病での治療を確認したり、介護士が食物アレルギーの有無をチェックするといった様々な場面で、あおもりメディカルネットがお役に立てるよう準備中です。

あおもりメディカルネットの利用は無料ですが、申込書に署名が必要です。ご自分のかかりつけ医があおもりメディカルネットに参加しているかなども含め、ぜひ各診療科外来窓口やナースステーション、医療連携部でお気軽に問い合わせてください。外来で採血結果の待ち時間などをご利用いただければ、手続きを終了することが出来ます。より安全な地域包括医療を受けて頂けるよう、皆様のお申し込みを心よりお待ちしております。

問合せ　医療連携部

TEL：017-726-8377、FAX：017-726-8162

青森県内の医療機関がつながります